ゆたかな心をはぐくむ 人権のひろば

子どもの目、子どもの声 人権作文シリーズ【No.24】

子どもたちはこの４月でそれぞれ進級、進学し新たな希望や夢を膨らませている時期です。その希望や夢が実現できる菊陽町づくりを町民の皆さんと共に目指し、今年度も子どもの声をこのひろばで届けていきます。

問い合わせ
人権教育・啓発課
☎232-2113

いろいろな人、いろいろな仲間が支えてくれます

今のぼく

菊陽西小学校　5年　宮田　匠

今ぼくは、すごくすごくうれしいです。

去年は、ぼくには友だちが一人しかいませんでした。でも今、いろいろな友だちや、いろいろな人、いろいろな仲間が支えてくれます。理由は、野球練習でぼくが怒られたときに、練習最後にならぶとき、「いっしょにならぼう。」と声をかけてくれる人がいました。他にも、野球のソックスを忘れてしまったとき、ソックスをかしてくれる人もいました。ぼくは、友だちが増えたと思うときがいっぱいありました。

▲友だち

過去の自分は、学校がこわくて、家から一歩も出たくないと思う日が続きました。ぼくの心は折れていました。でもそんなときに、ぼくを助けてくれた人がいました。ぼくはうれしかったです。

この前、ぼくたちは、学級で意見を出し合いました。ぼくは、ある人とケンカをすることが多いです。そのことについて、ぼくは、いけないと分かっていても、ついかっとなって悪口を言ったりしてしまいます。言ってしまった後の気持ちは、最悪です。心のなかでは、その人と仲よくなりたいと思っています。みんなは、ぼくたちのことを一生けん命考えてくれました。「こうすれば仲よくなれる。」「人生で必要だ。」「けんかをする人だけの問題じゃなくて、クラスみんなで考えなければならないことだ。」などの意見をみんなが出してくれました。話合いの結果、ぼくとその人が仲よくすれば、笑顔いっぱいのクラスに近づくことが分かりました。

これから、言葉だけじゃなく本当の思いを伝え合えるように、みんなともっとがんばっていきたいです。

あきらめたら何もかわらない

永田さんの話を聞いて

菊陽北小学校　5年　岩永　明香里

私は、永田さんの話を聞いて、あらためて勉強の大切さが分かりました。勉強をしないと、どれだけ大変なのかもわかったので、ちゃんと勉強しようとおもいました。

永田さんは、石川さんを助けようとする気持ちがすごいと思いました。石川さんを助けるためにはちえや勇気が必要だと思います。私は、石川さんもすごいと思ったけど、永田さんみたいに救おうとする人たちもすごいと思いました。石川さんは、助けようとしてくれる人がいたからあきらめずにがんばれたんじゃないかと思いました。永田さんは、「他人のことだと思って知らないふりをしてはいけない。」とおっしゃいました。私は、他人のことだと思って注意しないことがあるので、それではだめなんだと思いました。私は、注意しても聞いてくれなかったとき、あきらめてしまうことがあります。でも、あきらめたら何もかわらないので、あきらめないようにしようと思いました。

▲教え合える学級

そして、教え合える学級をめざそうと思います。おかしいことをゆるしてはいけないので、みんなで協力して、教えあおうと思います。

(注)両作文の作者は現在中学1年に進級しています。

菊陽人りさーち

西本（にしもと）　光希（みつき）さん（12歳）
［中　代］

- 趣　味　野球
- 将来の夢
  エンジニアの仕事に入ること
- 自　慢
  友達がいっぱいいること
- みんなに伝えたいこと
  これからもよろしくお願いします。

「菊陽人りさーち」に掲載を希望される人は、はがきに「氏名」「年齢」「住所」「連絡先(昼間)」を明記のうえ〒869-1192菊陽町役場総合政策課「菊陽人りさーち」係までお送りください。
注）掲載対象は、小学生以上で菊陽町に居住している人に限ります。親子、祖父母と孫など２人１組での掲載もできます。掲載が決まりましたら、こちらからご連絡させていただきます。

工藤（くどう）　正義（せいぎ）さん（11歳）
［中　代］

- 趣　味　サッカー
- 将来の夢
  サッカー選手
- 自　慢
  友達がたくさんいること
- みんなに伝えたいこと
  菊陽町をもっと楽しい町にしていきたいです。

きくよう文芸

菊陽句会報（三島一郎先生追悼弔句）

想い出は消えることなし寒桜　松橋　強
逝きてなほ浄土に匂ふ梅の花　野口　令史
賜はりし教へは遠永に冴え返る　佐藤　節
師の御霊誌友待つ園へ春淋し　宮川ユキエ
春寒し黄泉の旅路の安かれと　吉野　早苗
教わりしホ句の数々梅匂ふ　川口　豊子
春悲し五十年の灯を見失ふ　井上久美子
春立ちて黄泉路安かれ句を友に　日髙　妙子
添削の朱書きに偲び春灯下　曽我　育代
句の心授けて梅の御浄土へ　紫藤　祥子
師に感謝指導賜り春の雨　曽我トモ子
師の教へ修し賜る木の芽雨　村上　朋子

巨星逝く菊陽句会の梅二月　合志　重子
鳥雲に写経の筆の穂の硬し　村田　正三
梅の香や温顔の師は逝かれたる　坂本百合子
白梅に面影遺し師は逝かれ　田中　郁子
春風に乗り人生の御卒業　井　子文
教はりしことの数々春の雲　財津　早雪
恩師より句の人生を賜りぬ　原野レイ子
哀しさや導きたまひし師の訃報　寺尾千代子
涅槃会に合せし如く師は逝きて　髙橋　孝子
慈愛満つ笑みの悲しや春しぐれ　カ　幸子
師とまみえ幾年月ぞ別れ雪　佐藤　澄世

短歌会

如月の雪にしなりし細枝の雪解けし後に紅の花　今村　貞子
少しずつ春の気配は近づけど蕪洗う桶今朝も凍りぬ　梅田　國雄
峰々は雪に覆はれくきやかな阿蘇の姿を遥か見渡す　菊川あさみ
居並びてもだせる患者つきるなし医療費高騰の声きくなかに　河北　幸一
路地行けば咲き初むる紅梅見つけたり春待つ一日の風の冷たさ　佐藤せい子
吾が庭の梅の一木は蝕まれ枝に蕾の見えず寂しき　下田　久子
秋の日に花咲きつぎしミニバラの冷気の中に赤き一輪　森　敦子